

1-3月期の豪GDPは市場予想通りのプラス成長維持

- 豪1-3月期GDPは前期比+0.3%と、市場予想通りのプラス成長を維持。マイナス成長の回避で市場に安心感広がる。
- 1-3月期の景気減速は天候不良が影響。大型サイクロンによる資源輸出への被害から、純輸出が成長を押し下げ。
- 1-3月期は民間消費など内需が景気を下支え。天候不良など一時的要因を除けば、豪州経済はなお底堅さを維持。
- 産業別では1-3月期はサービス業が成長押し上げに寄与。引き続きサービス業が豪州経済の安定拡大をけん引。

1-3月期GDPは前期比+0.3%の成長を維持

豪州の2017年1-3月期の実質GDPは前期比+0.3%と2016年10-12月期の同+1.1%から減速したものの、市場予想(同+0.3%)通りの結果となりました(図1)。

一部の市場関係者の間で1-3月期のマイナス成長が予想されていたものの、市場予想通りのプラス成長が維持されたことで豪州金融市場では安心感が広がっています。

1-3月期の実質GDPの減速は天候不良が影響

1-3月期の実質GDP成長率が減速した背景には、天候不良による一時的要因が影響したとみられています。3月下旬に豪州北東部に上陸した大型サイクロンが資源輸出に悪影響を及ぼしたことなどから、1-3月期は純輸出が経済成長率低下の主要因となりました(図2上)。

大型サイクロンは石炭輸送設備などに大きな被害をもたらしたことから、天候不良の影響は4-6月期にも及ぶ可能性があります。

内需の下支えによって豪州経済は底堅さを維持

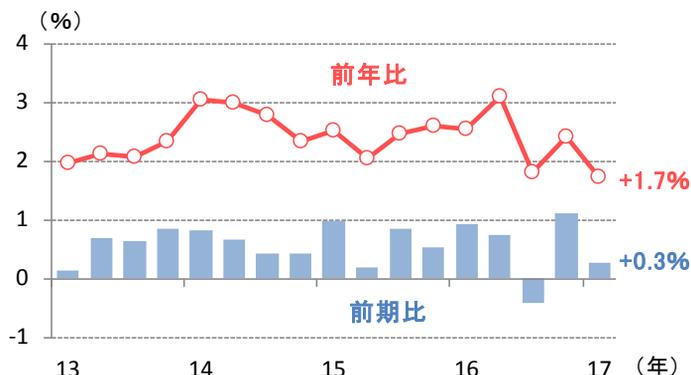
もっとも、1-3月期は純輸出の落ち込みを民間消費や政府消費などの内需が下支えており、一時的な要因を除けば豪州経済はなお底堅さを維持していると考えられます。

1-3月期の民間消費は前期比+0.5%(前年比+2.3%)となり、リーマンショック後の2009年1-3月期から33四半期(8年3ヵ月)連続での前期比で拡大となりました。

サービス業が豪州経済の安定拡大をけん引

また、産業別GDPでは、1-3月期は農林漁業などの落ち込みがみられたものの、サービス業(前期比+0.5%寄与)が経済成長の押し上げに寄与しました(図2下)。GDPの約6割を占め、内需型産業であるサービス業が引き続き豪州経済の安定的な拡大をけん引していると言えます。

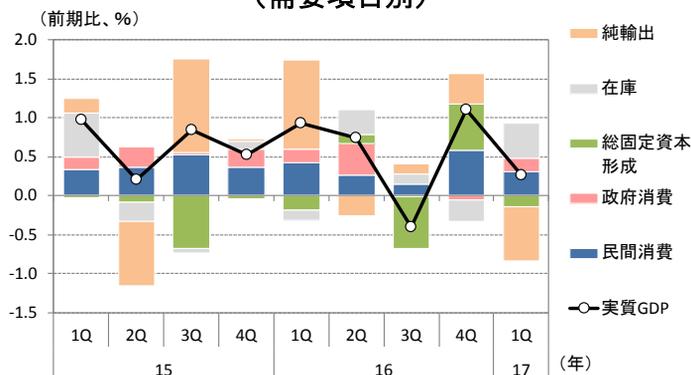
図1: 豪州の実質GDP成長率



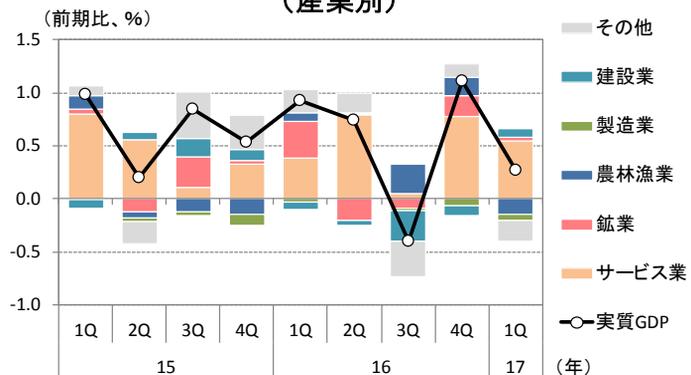
(出所)豪州政府統計局(ABS) (期間)2013年1Q~2017年1Q

図2: 豪州の実質GDP成長率の寄与度分解

(需要項目別)



(産業別)



(出所)ABS (期間)2015年1Q~2017年1Q

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。